

## 第24回 奥むさし駅伝競走大会

### 【出場結果】

実施日：1月25日（日）9時スタート

コース：東飯能駅西口前～西吾野駅前折返し～飯能市内銀座通り（きもの処かきぬま前）

総距離：6区間 38.8km 成績：1時間57分54秒 5/108位

出場者・リザルト：1区9.9km 下田 大翔 2/108位 29'46"

2区5.5km 親崎 達朗 6/108位 17'23"

3区4.4km 田中 龍誠 11/108位 14'20"

4区4.5km 三浦 剛 7/108位 13'27"

5区5.2km 小林 航央 6/108位 15'05"

6区9.4km 坪井 韶己 4/108位 27'53"

### 【レポート】

冬の風物詩とも言える埼玉県飯能市で開催される奥むさし駅伝競走大会ですが、飯能市の財政悪化に伴い、来年の大会は休止、再来年以降も開催は未定とアナウンスされております。

複雑な心境ではありますが、これまで本大会によって駅伝の素晴らしさや難しさを経験でき、チームとして成長を重ねられたことに感謝の想いを込めて、一般の部3位以内をチーム目標として掲げレースに臨みました。

1区には新人の下田を起用しましたが、入社当初は環境の変化もあり、本来の力をなかなか発揮出来ずにいたものの、秋口に入るとめきめきと頭角を現し11月の東日本実業団駅伝で好走を見せ、その後は練習でもチームを引っ張る力強い走りを見せていましたため、今回の駅伝でも自信を持って1区での起用となりました。



一般の部、高校の部、地区対抗の部のランナーが一斉にスタート！！

スタート後、駿河台大学の留学生が1人飛び出す形となりましたが、下田は第2集団でレースを進めました。

5km過ぎには徐々に集団が絞られていき、ラスト3kmを切ったところで下田はスピードを上げて単独2位に躍り出る快走を見せ、親崎の待つ第1中継所が視界に入ると鋭いラストスパートにより先頭を走る駿河台大学との差を更に詰めて9秒差の2位で襷を渡しました。

下田の快走で当社としては久しぶりに序盤から主導権を握る展開となりました。



区間2位の快走を見せた下田

絶好の位置で襷を受け取った親崎は、前を走る駿河台大学の選手との差を早い段階で詰めたいところですが、その差はなかなか詰まらず、コースの後半にある急坂に差し掛かると、逆に距離を広げられる展開に。

苦しいながらも親崎は持ち前の粘りで落ち込みを最小限に留め、先頭とは30秒差となったものの、後方のチームとは差をつけたまま3区の田中に襷を渡しました。



大声援を受けてラストスパートをかける親崎

4年連続の3区に起用された田中は、今シーズンは度重なる故障もありレースからは遠のいていましたが、駆伝にかける想いは強く、ぎりぎりの調整を続けて今回の起用となりました。

しかし、序盤から足取りが重くペースが上がらない厳しい展開となり、必死にペースアップを試みるも、後方から追いかけてきた3チームに抜かれ5位で4区の三浦に襷を渡しました。



今シーズン初レースとなり、本来の走りが影を潜めた田中

4 区に起用した三浦も小さな故障が続き、練習を詰めていない中での出場となりましたが、下りが続くコースをしっかりととしたピッチで駆け下り、前方のチームとの差は広げられたものの、最小限に留めて、5 区の小林に襷を渡しました。

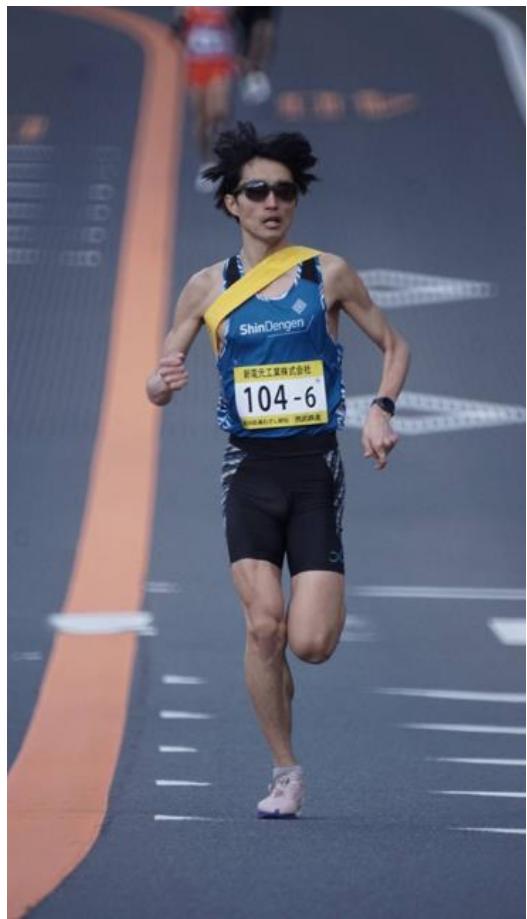


万全なコンディションではないものの、力強い走りを見せた三浦

5 区に起用された小林は、序盤から視界には捉えられない前方のチームをひたすらに追い、中盤以降もスピードランナーらしい勢いのある走りを見せると、アンカーの坪井が待つ第 5 中継所では 4 位のチームとの差を 11 秒まで詰める力走を見せて襷を坪井に渡しました。

アンカーを任せられた坪井は、数秒前を走る選手を追いましたが、結果的に区間賞を獲得した選手だったため、その差は徐々に開きだす展開に。

単独走となる中、必死に前を追いましたが、最後まで順位は変わらず一般の部 5 位でのゴールとなりました。



アンカーとして必死に前を追う坪井





## 【総 括】

一般の部 3 位以内を狙っての駅伝でしたが、結果として目標に一步届かなかつたものの、昨年度を上回る 5 位入賞となりました。

1 区下田の快走で久しぶりに主導権を握んでのレース展開でしたが、コンディションが整っていなかつた中盤区間での失速を後半区間で巻き返すことが出来なかつた点は、チームとして課題が残りました。

一方で、次世代を担う選手が確実に力を伸ばしていることを確認出来た点は一つの成果であると捉えております。

翌週に控える埼玉県駅伝では今回の駅伝で快走を見せた下田と、今回は控えに回つた同じく新人の救仁郷の 2 人を重要な区間に配置し、次世代を意識したメンバーでレースに臨みたいと思います。

最後になりますが、早朝から沿道より熱いご声援を頂きました田中社長をはじめとする役員の皆様および会社関係者の皆様、本大会の役員としてご尽力頂いた関係者の皆様に、チーム一同、あらままして御礼申し上げます。

引き続きまして、皆さまの温かいご声援を宜しくお願い致します。

以 上

写真提供：新電元工業株式会社 坂本千夏様、佐藤圭一様